

はじめに

この発表では、卒業論文執筆にあたりお世話になった椎津の「カラダミ」、および同目的で調査を行った他県の祭りの概要を紹介する。また、現在調べている内容についても最後にお話する。

1. 「葬送儀礼の真似事をする祭り」について

関東地方において、葬送儀礼を模して行われる祭礼として千葉県市原市椎津の「カラダミ」、埼玉県秩父市久那の「ジャランポン祭り」、茨城県鹿嶋市和立原の「ジャランボギオン」の三件が報告されている。卒業論文では、カラダミを中心に見学調査を行い、これらの事例の比較を試みた。

2. 主要な先行研究

秋山笑子 2002「市原市椎津のカラダミ」『千葉県祭り・行事調査報告書』千葉県教育委員会

大里正樹 2010「泣き祇園」『茨城県の祭り・行事：茨城県祭り・行事調査報告書』茨城県教育委員会

大島建彦 2005「椎津のカラダミ」『西郊民俗』190号 西郊民俗談話会

黒田迪子 2013「ジャランポン祭りの現在」『伝承文化研究』11号 國學院大學伝承文化研究会

山本節 2005「茨城県鹿嶋市大字和立原地区のジャランボギオン」『西郊民俗』190号 西郊民俗談話会

3. 椎津のカラダミ(千葉県)

平成19(2007)年に千葉県指定無形民俗文化財に登録。毎年8月15日、送り盆に催される。

祭礼当日は団子もらい、万燈行列、カラダミ行列の三つの行事が行われる。

(1)由来伝承

祭りの由来は、椎津城主であったと伝えられる椎津小太郎義昌と関連付けて語られることが大半。

城が攻撃された際、亡骸が発見されなかった小太郎のために、空の棺で葬式を営んだという伝承のほか、小太郎を逃がしてやるために偽の葬式を行ったなどとも言い伝えられている。また、カラダミを行わないと疫病があるのだと、あくまで疫病退散の祭りとも信じられているようである。

(2)祭祀組織の変遷

【第二次世界大戦頃まで】椎津青年団中心→(終戦前後数年間は挙行されず)→【昭和30年代後半まで】椎津消防団→(昭和40年代の後半まで十年ほど中断)→【昭和47年】椎津消防団→【昭和48年】椎津青年会中心→【近年】「友志会」が青年会を支えながら伝承→【平成27年】両組織解散→【平成28年】「椎津伝統行事保存会」発足。

(3)祭礼の内容

a. 団子もらい

午前6時、八坂神社から出発。乞食坊主と乞食に扮した二名が地域の家々を回り、家ごとに盆に供えた団子をもらい歩く。乞食坊主役は破れ布を身に纏って鉦をたたき、乞食役は頬被りをしてフゴ(背負いかご)を背負う。夕方の瑞安寺の法要までには地域全体を回り終える。

(万燈組み立て)午前8時から万燈の組み立て開始。山車の骨組みにバレンを取り付ける。カラダミ行列の際の持ち物(門、供養旗、杖、天蓋など)もこの時に作り揃えておく。

b. 万燈行列

午後 6 時、瑞安寺の本堂にて法要が開始される。椎津小太郎義昌の供養とあわせ、水難横死者などの供養のために「椎津小太郎之霊位」という位牌に向かって住職が読経。法要後は位牌を椎津小太郎の墓とされる五輪塔の前に置き、同じように読経。

午後 7 時頃、位牌が万燈の上に据え置かれ、再び住職が読経。万燈に一斉に明かりが灯され、行列開始。行列は「市原音頭」を踊るネリオドリの女性たち、リコーダーを吹く子供たち、乞食坊主と乞食、縄を曳く見物人が続き、万燈に乗り込んだ数人の男性が空の一斗缶をたたく。人々は「そりゃやっせ、おっこらせ、じゃらぼこ、じゃらぼこ、おんじゃんじゃん」とにぎやかに囃し立てながら進む。

万燈行列が目的地(姉崎小学校前)に到着すると、明かりが消され、切り離されたバレンを見物人たちが取り合って家に持ち帰る。これを門口にさしておくといわれ、悪い病気にかからないなどといわれる。

c. カラダミ行列

午後 8 時 30 分頃、カラダミ行列が出発。棺桶に代表者一名が入り、頬被りをした人たちが道具を持って棺を担ぎ、葬列を組んで速足で瑞安寺へ向かう。「オッカが死んだ、チャンが死んだよー、わあわあ」と大声で叫びながら進む。途中八坂神社へ立ち寄り、盆踊りの櫓の周囲を左回り(反時計回り)に 3 周した後、櫓の上に棺を置き、棺の前で乞食坊主が読経する僧の真似事をする。再び棺が担がれ、瑞安寺に向けて走る。到着後、行列は寺の前庭で左回りに 3 周し、本堂裏手へ駆け込んでいき、祭礼が終了する。見物人は小太郎の墓前で各々手を合わせ、梨をもらって帰る。

4. ジャランボギオンとジャランポン祭り

(1)立原のジャランボギオン(茨城県)

昭和 50(1975)年に鹿嶋市指定無形民俗文化財に登録。

立原農村集落センターから葬列を組んで立原地区内の小字長泥(ながとろ)にある「ジャランボ遺跡」まで行き、遺跡の聖観音像(供養塔)に向かって泣き真似をする。別名「ナキギオン(泣き祇園)」。

かつてはガンバコ(棺箱)を載せた棺台をロクシャク(陸尺)四人で担いでいた。

各自供養塔の前で線香を手向け、「オッカチャンが死んだよー」などと思いつきに泣き声をたてる。供養の後には祝い唄である「祭頭囃子」を歌いながら行きとは別の道を通って戻る。

祭りの期日は、本来は旧暦 6 月 15 日。現在では新暦 7 月 15 日に最も近い日曜日に行われる。祭祀組織は立原の古くからの住民で、新興住宅地の住民はほとんどが参加しない。

祭りの由来は大きく分けると①馬の死による説、②馬と武人の死による説、③馬と女または村人の死による説などがある。

(2)久那のジャランポン祭り(埼玉県)

秩父市久那の中の一部、下久那^{しもくな}地域に伝わる祭り。

下久那公会堂にて人身御供などと呼ばれる死人役の人物が白装束を纏って横たわり、棺に入れられる。バンソウ(伴僧)が取り囲む中、ニワカホウジョウ(俄方丈)という僧役の男性が経文を即興で唱えて葬式を行い、人身御供に引導を渡した後、棺をかついで諏訪神社へ向かう。神社到着後、死人役が神前に奉納され、再び俄方丈によって即興の経文が唱えられる。公会堂へと戻り、「お念仏」が行われて祭りは終了する。

期日は 3 月 15 日に最も近い日曜日。祭祀組織は下久那の住民。

由来は諸説ある。昔村内に流行した疫病の退散を願い、諏訪明神に人身御供を献じたという説、百年程前に若者組で酔った何人かが廃寺に入り込んで袈裟や木魚を持ち出して葬式のまねごとをしたのを発祥とする説、昔、敗走した落ち武者が敵の追っ手を欺くために、殿様が死んだ様に見せかける偽の葬式を行ったことが始まりとする説などがある。

明治のころジャランポン祭りはお盆過ぎに行われており、かつて地域の寺であった宗源寺(現在は廃寺)の祭りの余興であったのではないかとの意見もある。

5. 三者の比較を通じた椎津のカラダミの特徴

三つの事例は、カラダミとジャランポン祭り(本来の期日?)が盆周辺なのに対し、ジャランボギオンは虫送りの時期に行われるため、その点でジャランボギオンのみ儀礼の性格が多少異なるといえるが、元来夏の行事と考えられる点、葬送儀礼の形式をとっている点、疫病除けの目的を持つ点などにおいて共通している。

カラダミの特徴には盆行事というほか、城主の鎮魂や水難横死者の施餓鬼供養、疫病防除などが挙げられる。仏教的行事ではあるものの、万燈と称される山車は出羽三山信仰における梵天供養(大供養)にも通じており、伝承過程での様々な民俗の融合により現在の特異な形態が生まれたのだと考えられる。

結びにかえて

今回はカラダミを中心に発表し、事例の比較からカラダミへの意味付けを試みた。事例ごとにそれぞれ違った特徴を持ちながらも、かつて人々が祭りに託した悪疫防除の願いはどの土地でも切実さが窺い知れ、それを成し遂げるため、あえてこのような形態が選択されたことは興味深い点といえる。

生業やライフスタイルの変化に伴い、祭りを取り巻く環境は変化している。継承者の世代交代を繰り返していくなかで、今後どのように受け継がれていくのか見届けていきたいと感じた。

【お願い】

現在千葉県下における山岳信仰に興味を持ち、市内の出羽三山信仰について調べています。地域ごとに決められた期日に八日講や出羽三山への登拝などが行われています。市原市はその分布数が多く、現在でも受け継がれている地域が多いのが特徴です。修士論文では、現存の講において、講の在り方や信仰の現状がどのようになっているかを調査し、地域的にみた信仰の様相を明らかにしたいと考えています。

もし皆様のお住まいの地域での講の活動の様子をご存知の方や、また何か書き残したものをお持ちの方がいらっしゃいましたら教えてください。

よろしく願いいたします。

その他の参考文献

浅見清一郎 1970『秩父 祭と民間信仰』有峰書店

市原市教育委員会 1973『市原の歩み』市原市ほか

CraftMAP—関東地方の地図素材集—

http://www.craftmap.box-i.net/sozai.php?no=0161_3 (2017年5月22日最終閲覧)

表1 事例の比較表

名称	地域	祭日	祭祀組織	僧侶役	死人役	主な由来伝承	文化財登録
ジャランボギオン	茨城県鹿嶋市 和立原	7月15日に最も近い日曜日 (かつては旧暦6月15日)	古くからの住民	住民(昔は曹洞宗東医寺の僧侶)	—	馬の鎮魂	市指定無形民俗文化財
ジャランボン祭り	埼玉県秩父市 久那	3月15日に最も近い日曜日 (かつてはお盆過ぎか)	下久那地域の住民	ニワカホウジョウ(住民)	○	疫病退散	—
カラダミ	千葉県市原市 椎津	8月15日	椎津伝統行事保存会	瑞安寺住職	○	城主の鎮魂	県指定無形民俗文化財

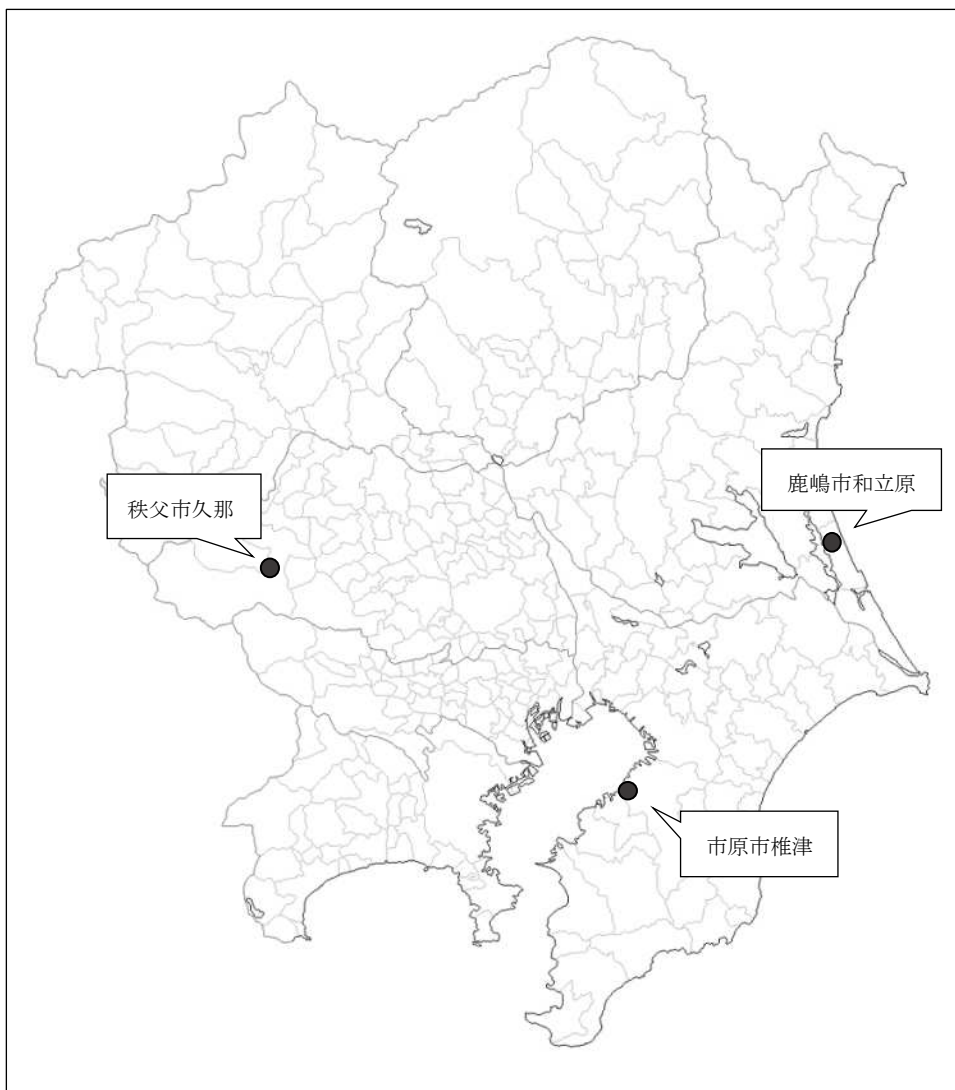


図1 事例の分布(CraftMAP「関東の地図素材」に筆者加筆)



写真 1. 万燈



写真 2. 盆踊りの櫓の上での読経



写真 3. 乞食と乞食坊主



写真 4. 椎津小太郎像



写真 5. カラダミ行列



写真 6. ジャランゴ遺跡にて僧役が読経する様子



写真 7. 聖観音像(供養塔)



写真 8. 下久那公会堂での読経



写真 9. 人身御供の神前奉納